

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を愛好し音や音楽に対する興味、関心を高める。 ・感性を高め、音楽の美しさを感じ取って、創造的な音楽活動の工夫ができる。 ・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・多様な音楽に対する理解を深め、創造的に鑑賞することができる。 	教科書	MOUSA1 (教育芸術社)
講座名	音楽 I	科目名	音楽 I			副教材	
単位数	2単位	区 分	選択学校必修				
年 次	1年次	形 態	選択				
担当者名	佐藤						

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜についての基本的な事項を学習する。 ・ギターの基本的な奏法を学習し、簡単なメロディー奏を実習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜についての基本的事項を学習し、実技練習に生かせるようにする。 ・ギターの基本的事項を理解して、コード演奏を実習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音符、休符の基本的事項を理解して、色々なリズムパターンを感得する。 ・リズムパターンを生かしてポディーパークッションを楽しむ。 ・キーボードに奏法に慣れて簡単なメロディー練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コードについて学習し、キーボードで鳴らせるように実習する。 ・簡単なメロディーのアレンジを考え、正しく楽譜に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的、歴史的背景などがさまざまな音楽を鑑賞する。 ・楽曲の形式を理解して、16小節程度のメロディー創作を行う。
定期考査までの授業時数	8時間	14時間	14時間	14時間	18時間

評価	観点		方法	基準		
	知識・技能	思考・判断・表現		A	B	C
	基本的な事項を理解して、それをもとに実技練習に取り組む。	楽譜について理解した事項を、器楽、創作、鑑賞活動に生かして、独自の感性をもとに工夫して表現できる。	教科書やプリントで基本的事項を説明し、その内容の演習問題や実技に取り組み、定着させる。	基本的事項を十分に理解して、その内容を実技演習に生かして、豊かな表現活動ができる。	基本的事項を理解して、その内容を生かして、自分なりの表現活動ができる。	基本的事項をおおよそ理解して、実技活動ができる。
	主体的に学習に取り組む態度	基本的事項を学習して理解し、自主的に実技演習に取り組む。自分で毎時間の目標を決めて、実習できる。	毎時間の取り組み状況を確認するとともに、提出物や実技試験によって状況を把握する。	学習した内容を十分に理解した上に、自分の感性を生かした表現を工夫できる。実技テストで、授業中に実習した成果を表現できる。	学習した内容を理解したうえで、授業中に実習した成果を表現できる。	学習した内容を理解した上に、授業中に実習した成果をおおよそ表現できる。
				学習した基本的事項をもとに、自分の課題を理解して、練習方法を工夫して自主的に実習できる。	学習した基本的事項をもとに、練習方法を工夫して、自主的に実習できる。	学習した基本的事項をもとに、自主的に実習できる。

日常の学習方法	様々な音楽表現に親しみ、音楽表現の意欲を高める。
---------	--------------------------

大学受験や発展的な内容との関連	基本的事項を演習問題などで定着させてから、発展問題に取り組んでいく。
-----------------	------------------------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 美術の幅広い学習を通して自己的美的表現力や創造力を伸ばす。 作品の鑑賞を通して人間の多様性を理解するとともに、美術を愛好する心情を育む。	教科書	日本文教出版社 高校生の美術 I
講座名	美術 I	科目名	美術 I			副教材	なし
単位数	2単位	区 分	選択学校必修				
年 次	1年次	形 態	選択				
担当者名	1組～8組 菅原						

授業内容	第1学期	第2学期	第3学期		
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
・美術の学習について ・色の三属性について ・私の地図(地図デザイン、マークデザイン) ①エリアマップから、見どころを選び、構想を練る ②レタリングの基本 ③見どころを示したマークデザインを考える ④デザイン地図のラフデザインを行う ⑤地図とマークの下描きから彩色へ ⑥地図とマークを組み合わせ、完成させる ⑦完成した作品の鑑賞	・紙から作る立体 ①カッターの使い方について ②「切る・折る」で作る立体 ③「切る・組み合わせる」で作る立体 ④アイディアスケッチと試作制作 ⑤本制作 ⑥完成した作品の鑑賞	・油絵「静物画」 ①絵の具や筆など道具の使い方について ②道具の片付け方について ③モチーフを選ぶ ④構図を決めて、下描きをする ⑤下描きから着色へ ⑥描画技法について ⑦制作 ⑧作品の完成と鑑賞	・凹版画 ①線を用いた表現について ②凹版画の道具の扱い方について ③作品の構想を練る ④版の制作 ⑤刷り ⑥完成した作品の鑑賞	・コマ撮りアニメーション ①映像のテーマを決める ②シナリオ・絵コンテを制作する ③キャラクターと背景を制作する ④コマ撮り撮影 ⑤編集作業 ⑥完成した映像作品の鑑賞	8時間 14時間 14時間 14時間 18時間

評価	観点	方法	規 準		
			A	B	C
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	制作に必要な基本的な道具の扱いや、目的に応じた使い方や工夫がなされているか。表現に応じた使い方の工夫ができていますか。	道具の名称と使い方を最初に説明し、適切な使い方を随時確認する。表現に応じた道具の工夫について随時確認する。	道具の名称を覚え、適切に目的に応じた使い方ができる。表現に応じて使い方を工夫し、自分らしい表現ができています。	道具の扱いを覚え、目的を意識し基本的な使い方ができる。表現方法に応じた使い方を質問するなど、自分から工夫する。	道具の基本的な使い方を覚え、基本に忠実に使用し表現することができる。
	構想を練る際に、言葉やイラストを用いたアイディアスケッチを重ね、より良い表現を模索することができたか。	クロッキー帳に思い浮かんだイメージや言葉をメモし、アイデアをまとめた過程を描き、提出する。	作品のテーマやキーワードを言葉にして書き出し、具体的なアイディアスケッチを重ねて、作品の構想を練る。	作品のキーワードを挙げて、具体的なアイディアスケッチを重ね、作品の構想を練る。	作品のテーマに沿って、具体的なアイディアスケッチを行い、作品のイメージを決める。
	鑑賞で挙げられた作品の良い点を理解し、工夫して自分の作品へ生かすことができたか。制作に必要な資料や道具を自分で揃えることができたか。	作品完成後、作品と工夫した箇所をキャプションに書き、提出する。資料や道具については随時確認する。	鑑賞作品の表現方法を効果的に取り入れる。制作に必要な資料や道具を自分から確認し用意する。	鑑賞作品の表現方法を取り入れ、自分の表現を工夫する。制作に使用する道具を確認し用意する。	鑑賞作品の部分を模倣をするなど、表現方法を取り入れ、制作を行う。制作に使用する最低限の道具を用意する。

日常の学習方法	自らが制作した作品に愛着がもてるよう、丁寧に取り組む。
---------	-----------------------------

日常の学習方法	色に関することや道具の扱いに関する基礎的なことを制作を通じて学ぶ。 大学受験や発展的な内容との関連
---------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標 古典を学び臨書し、その学びから発展し創作する。	教科書	書道 I (光村図書)
講座名	書道 I	科目名	書道 I		副教材	硬筆レッスン帳 (教育図書)
単位数	2単位	区 分	選択学校必修			
年 次	1年次	形 態	選択			
担当者名	井口 真美 (3.4組, 5.6組)、秋元 央嗣 (1.2組, 7.8組)					

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
	中学国語書写との違い 自己紹介 永字八法 硬筆	漢字の学習 五書体について 楷書 初唐の三大家・唐の四大家について 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔真卿の書	漢字の学習 行書 蘭亭序 風信帖 草書 隸書 篆書 漢字を用いた創作	仮名の学習 平仮名について 蓬萊切 高野切 仮名を用いた創作	漢字かな交じりの書 創作
定期考査までの授業時数	3時間	6時間	7時間	5時間	7時間

観点	方法	基準			
		A	B	C	
知識・技能	書道における基礎知識を理解したか。筆遣いは身についたか。	毎時間清書を提出する。小テストを授業内に行う。	授業で得た知識を十分に理解し、また、様々な形の画や字形を観察把握し、表現し書くことができる。	授業で得た知識をほぼ理解し、また、様々な形の画や字形を観察し、書こうとすることができる。	授業で得た知識が不十分で、画や字形を把握せずに書いてしまう。
思考・判断・表現	それぞれの作品の特徴を理解し、表現できているか。	毎時間授業内に添削や机間巡視を行い、一人一人にアドバイスする。また創作を行う。	それぞれの作品の特徴を十分に理解している。また、学んだ古典作品等を参考に、自分の考えた書を十分に創作することができる。	それぞれの作品の特徴をほぼ理解している。また、自分の考えた書を創作することができる。	それぞれの作品の特徴の理解が不十分である。また、創作作品に努力を要する。
主体的に学習に取り組む態度	書道に興味を持ち、意欲的に取り組んだか。	取り組む姿勢、意欲。そして、こちらが提示した最低限のことだけでなく、さらに発展して取り組んでいるか。	よりよい書を書くために、積極的に添削等を行うなど、努力が十分にみられる。	課題をこなすために、黙々と取り組む。	書道への関心が薄く、取り組みが不十分である。

日常の学習方法	よりよい書がかかるように、何度も試行錯誤する。また、日常生活の中にある書を見たり探したりすると良い。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	履歴書等、自筆で書く提出書類や日常生活の書く場面でいさせるよう、平日頃から、字を綺麗に書くという姿勢を大事にする。
-----------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	音楽の諸活動を通して、感性を高め、豊かな音楽表現のための基礎的な要素の習得と伸長を図る	教科書	MOUSA II
講座名	音楽II	科目名	音楽II			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	自由選択				
担当者名	佐藤						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	・様々な音名 ・各音程による響きの特徴 ・3和音	・正しい発声法 ・声によるソルフェージュ ・コードの仕組みと響き	夏季休業期間	・音符と休符の混ざったリズムソルフェージュ ・4和音 ・簡単な和音進行	・調の特徴 ・演奏表現の工夫 ・楽語の理解	冬季休業期間 ・過去問題演習
	定期考査までの授業数	6 時間	10 時間	8 時間	8 時間	8 時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	・課題の習得状況を、毎時間確認する。 ・自分の課題を理解して、それを克服するために主体t歴に取り組んでいるか。
---------------	--

日常の 学習方法	・課題プリントの復讐
-------------	------------

大学受験や 発展的な内容との関連	・志望大学および傾向の類似している大学の過去問題集利用
---------------------	-----------------------------

令和5年度(2023年度) 授業計画				目 標	進路希望先大学の課題内容を基本から学習し、過去問題を確実にこなせるまで、演習を行う。	教科書	MOUSA II
講座名	ソルフェージュ	科目名	ソルフェージュ			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	自由選択				
担当者名	佐藤						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	・楽音、純正率と平均律 ・音程 ・複音程 ・転回音程 ・旋律聴音	・長音階 ・自然短音階 ・和声短音階 ・旋律的短音階 ・4声解離聴音	夏季休業期間	・音符と休符 ・音符と休符 ・リズムと拍子 ・調号3つまでの旋律聴音	・調判定 ・コード ・音楽史 ・32分音符ありの旋律聴音 ・4声聴音	冬季休業期間 ・過去問題演習
	定期考査までの授業数	6 時間	10 時間	8 時間	8 時間	8 時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	・課題の習得状況を、毎時間確認する。 ・自分の課題を理解して、それを克服するために主体t歴に取り組んでいるか。
---------------	--

日常の 学習方法	・課題プリントの復讐
-------------	------------

大学受験や 発展的な内容との関連	・志望大学および傾向の類似している大学の過去問題集利用
---------------------	-----------------------------

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	美術Ⅰの学習を基礎に、意図に応じて表現方法を工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにす	教科書	
講座名	美術Ⅱ	科目名	美術Ⅱ			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	菅原						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 色の三属性について 画像の補正について理解し、基本的な画像補正に取り組む。 作品の構想を練る。 幾何学形体の展開図について知り、展開図を設計して立体を作る。 作品の主題に応じた素材について探求する 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の構想を練る。 表現に応じた素材の取り扱いを探求する。 作品のテーマに沿って制作を進める。 作品を完成させ、生徒同士で鑑賞し合う。 	夏季休業期間	<ul style="list-style-type: none"> 個別に、色彩や立体など、受験対策に必要な課題に取り組む。 自己の得意な表現を追求し、独自の表現を生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題に沿った表現技法を試行錯誤し、制作に取り組む。 	冬季休業期間	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞し合う。
	定期考査までの授業数	10 時間	12 時間		8 時間	14 時間	

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練ることができたか。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 制作テーマを絞り、主題に沿って素材を試しながら、表現の可能性を探る。 ②家庭学習 雑誌やネット上の情報などから、美しさや面白さを感じた物をメモやスクラップに残し、アイデアスケッチを作成する。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	自己の得意な表現を追求したり、鑑賞の学習で学んだ作者の表現を参考に独自性を生かしながら表現を試行錯誤する。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	美術Iの学習を基礎に、創造的な表現の構想を練り、主題にあった表現方法を追求して創造的に表すこと 美術系大学の入試課題に取り組むと同時に、課題意識を基にして主体的に表現に取り組む。	教科書	
講座名	美術表現	科目名	美術表現			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	菅原						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 色の三属性について 平面作品から立体へ物の構造の理解 作品の構想を練る。 作品の主題に応じた素材について探求する 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の構想を練る。 作品の完成イメージをまとめ、制作に取り掛かる。 作品のテーマに沿って制作を進める。 作品を完成させ、生徒同士で鑑賞し合う。 	夏季休業期間	<ul style="list-style-type: none"> 主題にあった表現方法を追求し、制作に取り組む。 自己の得意な表現を追求し、独自の表現を生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題に沿った表現技法を試行錯誤し、制作に取り組む。 	冬季休業期間	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞し合う。
	定期考査までの授業数	10 時間	12 時間		8 時間	14 時間	

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練ることができたか。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 制作テーマを絞り、主題に沿って素材を試しながら、表現の可能性を探る。 ②家庭学習 雑誌やネット上の情報などから、美しさや面白さを感じた物をメモやスクラップに残し、アイデアスケッチを作成する。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	自己の得意な表現を追求したり、鑑賞の学習で学んだ作者の表現を参考に独自性を生かしながら表現を試行錯誤する。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	あらゆる美術分野の基礎である素描の学習を行い、基礎的な素描力をつける。 多くの美術大学の入試に課せられる素描の出題傾向を把握しその対策を講じる。	教科書	なし
講座名	素描	科目名	素描			副教材	なし
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	菅原						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	授業ガイダンス	ペン画デッサン(石膏)	夏季休業期間	鉛筆デッサン(構成)	講評	冬季休業期間	鉛筆デッサン(過去問)
	鉛筆デッサン(石膏)	鉛筆デッサン(構成)	授業はありません	鉛筆デッサン(構成)	鉛筆デッサン(過去問)		個別指導
	講評	鉛筆デッサン(構成)		鉛筆デッサン(構成)	鉛筆デッサン(過去問)		
		講評					
		鉛筆デッサン(石膏)					
		鉛筆デッサン(構成)					
		講評					
定期考査までの授業数	6 時間	10 時間		8 時間	8 時間		18 時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	意欲的に素描の学習に取り組み、創造的な表現の構想ができ、素描力の基礎基本が身に付いているか。 作品 レポート等提出物 授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 与えられたモチーフを描いたり、各自でモチーフを組んだりしながら、短時間に集中して完成させ、数多くの素描の作品をつくる。 ②家庭学習 特にありません。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	素描デッサンは美術大学や美術系の入試に必ず設けられている。その大学の傾向と過去の出題傾向を研究し効果的に力をつけていきたい。
---------------------	--